

職業実践専門課程等の基本情報について

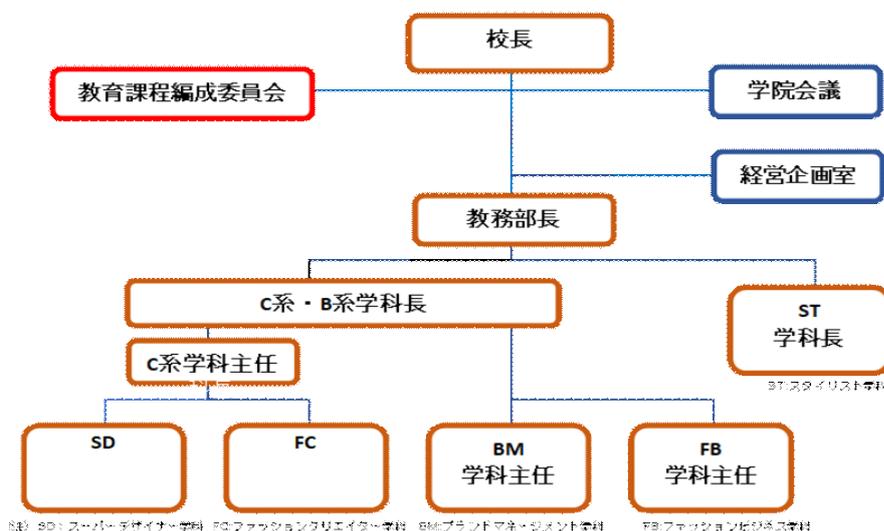
学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
大阪文化服装学院		昭和51年10月1日		和田 康彦		〒 532-0005 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人ミクニ学園		昭和23年1月23日		豊田 晃敏		〒 532-0555 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371			
分野	認定課程名		認定学科名		専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	ファッション専門課程		スーパーデザイナー学科		-	平成21(2009)年度	平成26(2014)年度		
学科の目的	世界で通用し、独立志向の強いデザイナー養成が目的。クリエイティブなデザイン力と自らのブランド構築の為、2年次に外部でグループブランドの制作、展示販売。3年次では商品企画演習等の講義と実習を組み合わせ実践授業に重点を置いている。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	Asia Fashion Collection 12th グランプリ、ファイナリスト、FASHION FRONTIRE PROGRAM2024 入賞、Fashion Graduate Italia 出場、第98回装苑賞 入賞、D-FRANCO Denim Disegno 2024・2025 入賞、Graduate Fashion Week International 2024 ファイナリスト、KAIHAT&Head-piece 2024 入賞、第32回大連杯 入賞、RELCLOTHES cup 2024 アップサイクルコンテスト 入賞、The 5th Korea Fashion Design Contest (銀賞、奨励賞、銅賞、優秀賞) 他								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 4,245 単位時間			660 単位時間	3,585 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率			
130人	118人		8人		0%	7%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		18人						
	■就職希望者数(D)		16人						
	■就職者数(E)		15人						
	■地元就職者数(F)		4人						
	■就職率(E/D)		94%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		27%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83%						
	■進学者数		3人						
	■その他								
	(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ヨウジャマモト、オンアンドオン、ヤマサワプレス、ユミカツラインターナショナル、フジタカリエーション、sacai、マーキーズ、アダストリア、バイクルーズ タレント事務所									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html">https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		4,245 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		202 単位時間							
うち必修授業時数		4,110 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		202 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)								
	総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		単位							
うち必修単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		20人						
	計		20人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		20人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

校長直轄下に「教育課程編成委員会」を設置し、企業の要請を十分に生かしつつ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成を図る。具体的には7月と12月に教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム内容や授業科目の見直しを行うほか、就職先である企業における人材の専門性に対する動向、新たに必要となる実務についての知識・技術・技能等を把握分析。教育課程編成委員会での討議の成果を教育課程の編成に迅速に反映できる組織運営を目指す。これにより、職業教育の質の担保に取り組むとともに、学科コースを絞って、委員会の所属先以外の企業からヒアリングやアンケート等を別途実施し、職種ごとに企業等が求める知識・技術・技能を把握。この結果を教育課程編成委員会で検討していく計画である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
 教育課程編成委員会の位置づけ



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
萩原 直樹	株式会社アーバンリサーチ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小林 義歩	マツオインターナショナル株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志貴 昌弘	シード株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
河野 あゆみ	株式会社エーツー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 (年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月17日 10:30～12:00

第2回 令和7年7月2日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の要請を十分に生かしつつ、実務的かつ専門的な職業教育に主体的に取り組む基本姿勢を堅持。この立場で教育課程編成委員会の私的や意見をどのように授業科目の編成、授業内容方法の改善に繋げていくかについては学内に設置している「学科長会議」(校長・学科長等で編成)において討議し、企業側の要請度合い、新しい成長性、知識・技術の高度化等の視点から分析し、優先順位を付けて教育課程の編成に取り組んでいく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携の中で学業成果を発揮するとともに、実践的かつ専門的な職業教育に必要な最新の知識・技術・技量の習得を目指し、学生の多様な職業教育ニーズに対応する。これと並行して企業等との連携を通じ、組織運営、業界活動に触れることで企業等に対する理解、社会性やコミュニケーション能力を高め、社会・職業に円滑に移行させることを基本に置く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「アダプティブファッションショー」の衣装製作。重症心身障がい者をモデルに、パートナー(介助者)の方々が着脱しやすい服のリメイクを行い、ファッションショーとして披露。TPOにあったオシャレなスタイリングはもちろん、着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う。本校においては、パターンコース13名が5チームに分かれ4つのシーンを選び、1チーム1体。全5スタイリングを発表。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
商品プランニングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
ファッションドローイングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファッションドローイングⅠで習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
パターンプロダクトⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
サンプルメイキングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
素材知識Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 尾州産地見学	連携企業等: 中伝毛織
期間: 令和6年8月27日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和6年9月3日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 妙中パイル織物
期間: 令和6年9月12日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権教育研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年10月9日	対象: 教員
内容: 発達障害等のある生徒が安心して学ぶために(生徒指導)	
研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年11月13日	対象: 教員
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和7年9月26日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年6月27日	対象: 教員3
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	
研修名: 新任教員研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年8月	対象: 教員2
内容: 専修学校と精度、専修学校における職業教育、専修学校教育の在り方と授業実施、学生・教員の為の実践心理、人権に関する基礎知識、専修学校教員のための個人情報保護法	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価の取組を通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図る。学校関係者評価では、実施に当たって企業関係者、保護者、卒業生等、学校の自己評価の結果等について評価することで、

- ・学校自己評価の客観性や透明性を高める。
- ・学校、企業、地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、学校運営の改善に繋がる連携効果を引き出す事を狙いとする。

学校は、創立以来「社会への還元」を理念に、全ての学生に最良のファッション教育を提供する事を目標としているが、年度ごとの重点課題、方針を明確化し、この達成に向けた具体的な取組を新しい評価項目として設定している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・教育人材像、学校の特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織や意思決定、人事や賃金での処遇、意思決定システム、情報システム等の業務効率化
(3) 教育活動	教育目標・人材養成像、到達可能性の知識・技術・人間性、カリキュラム体系化、科目の適正な位置付け、授業評価の実施、教員の要件・確保、成績評価・単位認定、資格取得、地域社会との連携
(4) 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率低減、卒業生・在校生の社会的活躍の把握
(5) 学生支援	就職・進学指導の体制、学生相談、学生の経済的側面と支援、学生の健康管理、課外活動支援、学生の生活環境、保護者との連携、卒業生支援、留学支援と海外教育機関との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップや海外研修体制の整備、防犯対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さ、学生募集での教育効果の伝達、入学選考基準、学納金の妥当性
(8) 財務	財務基盤の安定、予算・収支計画の有効性、会計監査、情報公開の体制整備
(9) 法令等の遵守	法令、設備基準の遵守、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施、改善取組、自己点検・自己評価の公表
(10) 社会貢献・地域貢献	-
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

大阪文化服装学院では、これまで保護者を対象に就職説明会を開催し、学校の教育方針、施設・設備の整備拡充状況、就職対策、特待生等の学生支援について、説明責任を果たす一方で、自己点検・自己評価にも並行してとり組んできた。今回、自己評価と学校関係者評価を一体化して推進するに当たり、ステークホルダーとして企業、関係団体等のニーズを踏まえた具体的な評価項目の絞り込みを通して、教育内容、授業方針、学校マネジメントの改善に活用したい。特に経営陣の経営管理能力の向上、教職員の研修機会を確保する事で、資質、スキルアップ、教員の関係業界との交流を通じ、卓越した実践・実務型の職業教育能力を身に付けた教員育成を図る。

・少子化の影響が進んでおり、学校業界が連携して情報交換等を強化しながら運営する事が必要であり、文化服装学院連鎖講協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、関西ファッションカレッジコンソーシアム等の組織をファッションを通じて、より一層の情報交換を行っていく。

・起業家を育てる事を目的とした企業とのコラボを研究する必要があるが、大学ではそのような取組もなされており、専門学校においてもカリキュラムに取り入れる必要について検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
片岡 敏哲	大阪市泉尾工業高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩光 栄太郎	文化すみれ会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
大黒 正人	保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に学校の理念や教育方針について正しく理解してもらうため、学校の基本情報を積極的に開示、提供する。これを通じて、教職員、生徒、企業、保護者、地域間で共通の理解を深め、教育活動の活性化と運営の円滑化を図る。提供手段として、ホームページ、印刷物、学校案内パンフレットなど多様化させるとともに、わかりやすさにも配慮する。また提供に当たって、個人情報の取扱いについて十分に留意する事とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材の養成の目標、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先等、学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成、授業時数))、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得する資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	教職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技等の取組み、就職支援等への取組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み
(7)学生納付金・修学支援	奨学金、授業料免除等の案内等
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ、派遣、海外の学校等との交流
(11)その他	生活ガイドブックの作成、配布

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

授業科目等の概要

(ファッション専門課程 スーパーデザイナー学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			デザイン発想理論・演習Ⅰ	デザインの基礎となる考え方、リサーチの手法、リサーチの落とし込みを学ぶ。	1前	60		○		○	○			
2	○			コンセプトデザインⅠ	デザインの基礎となる考え方、リサーチの手法、リサーチの落とし込みを学ぶ。	1後	60		○		○	○			
3	○			ファッション・ローイングⅠ	ファッション・ローイングの基礎となる人体の描き方、素材の表現方法を学ぶ。	1通	120		○		○			○	
4	○			パターン理論・プロダクト演習Ⅰ	ブランド・企業の現場で通用する、ベーシックなアイテムからデザイン性の高いアイテムまで、様々なデザイン、シルエットを自由に表現できる知識・技術を身に付ける。	1通	360		○		○	○			
5	○			サンプルメイキングⅠ	服作りの基礎となる縫製技術を学び、作品作りを通して服の構造を理解する。	1通	240		○		○			○	
6	○			素材知識Ⅰ	ファッション業界の重要な基礎知識である素材の知識を習得し、ビジネス・クリエイティブそれぞれの分野において実践で活用できる事。	1通	45		○		○			○	
7	○			ファッションマーケティング	ファッション業界で基礎となるトレンド、ファッション感性、ターゲットの知識を学び、またリサーチを通して市場の流れを理解する。	1後	15		○		○	○			
8	○			ファッションカラー	ファッション業界における業務遂行上必要な色彩の基礎知識、ならびに色彩感覚の向上と的確な色彩運用能力の習得を目的とする。	1通	60		○		○			○	
9	○			西洋服装史	西洋服装の基礎知識を学び、時代や地域、社会、芸術との関わりを知る。	1後	30		○		○			○	
10	○			トレンドⅠ	デザインの基礎となるファッション・トレンドについて学び、過去の流行から現在の流行の流れを理解させる。またその知識を用いデザインに応用する力を身に付ける。	1後	15		○		○	○			
11	○			ブランド知識Ⅰ	コレクションで有名なブランドを中心に、その歴史やデザイナー等の知識を深める。またブランドコンセプトを調べ、各シーズンのコンセプトの繋がり等を理解する。	1後	15		○		○	○			



27	○		ビジネスコミュニケーションⅡ	ビジネス現場において求められる社会人としての基礎能力を理解し、身につけさせる。中でも、組織の理解、組織の中で仕事や生活するために必要な人間関係調整力をマナーの授業を通じて学習する。	2通	60		○		○	○								
28	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	2前	15		○		○								○	
29	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	2通	30			○			○	○						
30	○		ブランド企画Ⅱ	MYブランドの立ち上げから商品制作、プロモーション、展示会出展、販売デバリーまでを学ぶ。	3前	60			○			○						○	
31	○		コレクションデザインⅠ	MYブランドの立ち上げから商品制作、プロモーション、展示会出展、販売デバリーまでを学ぶ。	3後	60			○			○						○	
32	○		コンテストローイングⅡ	各コンテストに向けたデザイン画を作成。過去の入賞者や各コンテストの特徴を調べ、表現方法を模索し独自のスタイルを身に付ける。	3通	120			○			○							○
33	○		コレクションパターン理論・演習	パターンメイキングの基礎を基に、ジャケット研究を中心にあらゆるデザイン・アイテムに対応できるパターンメイキング知識と技術を習得する。	3通	240			○			○							○
34	○		サンプル生産・演習	自身のデザインした世界観をどの様に形作ればよいか、素材の特徴を理解し、素材に適した副資材の知識を高めると共に、特殊シンの使い分けや操作方法を学び、クリエイティブな作品づくりを目指す。	3通	120			○			○							○
35	○		CAD	TORAY ACS CREA COMPOを使用してCAD操作を習得。CADシステムを利用してパソコン上で基礎知識を基にパターンメイキングが出来る。	3通	120			○			○							○
36	○		グラフィックデザインⅡ・WEBⅠ	ファッション業界において広く利用されている、コンピュータによるデザインやプレゼンテーション資料作成のスキルは必要である。就職活動・トレンドを加味した提案資料や卒業作品で取り組む自己ブランドに関連するコンピュータ作業がスムーズに実践できるように応用力を高める。	3通	120			○			○							○
37	○		海外短期留学	ファッションを学ぶ世界中の若者が集まるヨーロッパ屈指のファッションスクールであるイタリア・ホリモダ校で、世界標準の発想・デザインを学び、世界に通じるデザイナーに必要な「発想力」を高める。	3後	30			○				○	○					
38	○		就職対策Ⅰ	ファッションビジネスの現場において求められる社会人基礎能力を身に付ける為の講義・実践を通して理解、習得する。	3後	30			○				○						○
39	○		商品企画生産Ⅱ・実習	MYブランドの立ち上げの為のデザイン・パターン・縫製の演習	3通	90			○			○							○
40	○		Design process and Portfolio building	6スタイリングで構成されるミニコレクションを提案し、ポートフォリオにまとめる。	3通	60			○				○						○
41	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	3前	15			○				○						○

42	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	3 通	30			○			○	○		
43	○		ブランド企画Ⅲ	3年次に立ち上げたブランドをさらに進化させて、もう1シーズンのコレクションを実施。卒業コレクションも兼ねて、SHOWアップした見せ筋商品から、リアルな商品を織り交ぜて展開する。	4 通	120			○			○	○		
44	○		コレクションデザインⅡ・実習	ブランド企画Ⅲの演習と実習。デザイン・パターン・縫製の研究。	4 通	120			○			○	○		
45	○		コレクションパターン研究	コレクションブランドの確立の為に、各アイテムに必要なシルエットやディテールのパターンメイキング知識と技術を修得させる。	4 通	240			○			○	○		
46	○		サンプル生産・研究	自身のパーソナルな部分を掘り起こしつつ、マイブランドの立ち上げに向けて、リアルターゲットを明確にし、アートとリアルの間地点を探り、商品としての服を考え、商品力の展開力を学ぶ。	4 通	120			○			○	○		
47	○		商品企画生産研究Ⅱ・実習	MYブランドの立ち上げのためのデザイン・パターン・縫製の演習	4 通	240			○			○	○		
48	○		グラフィックデザインⅢ・WEBⅡ	アパレル業界において広く利用されている、コンピューターによるデザインやプレゼンテーション資料作成のスキルは必要である。就職活動・トレンドを加味した提案資料や卒業作品で取り組む自己ブランドに関連するコンピューター作業がスムーズに実践できるように応用力を高める。	4 通	120			○			○	○		
49	○		就職対策Ⅱ	就職活動対策。就職のための書類選考課題、実技試験、面接時のプレゼンテーション対策。	4 前	30			○			○	○		
50	○		Final portfolio review	マイブランドのコレクションに基づいて、ポートフォリオを作成する。Oleg氏による直接レビューから毎回修正を行う。	4 前	30			○			○	○		
51	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	4 後	15			○			○	○		
合計					51	科目	4245 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各学科の在学期間に定められた履修規定に従って科目の授業時数を修得することにより進級卒業が認められる。		1学年の学期区分	2期
履修方法：定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験またはレポート、作品、成果物提出が其々の科目で要件を満たした場合。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

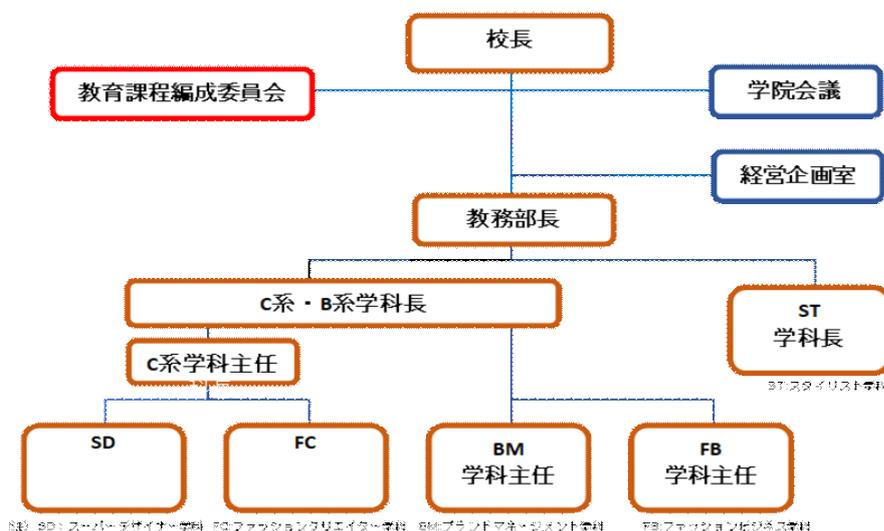
学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
大阪文化服装学院		昭和51年10月1日		和田 康彦		〒 532-0005 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人ミクニ学園		昭和23年1月23日		豊田 晃敏		〒 532-0555 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371			
分野	認定課程名		認定学科名		専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	ファッション専門課程		ファッションクリエイター学科		平成 7(1995)年度	—	平成26(2014)年度		
学科の目的	アパレル企業で企画職、技術職として活躍できる人材育成。2年次から授業の職種に対応してコースを選択する。3年間を通して共通科目の「デザイン」「パターン」「縫製」「3D」を修得。服作りの基本から高度な技術に裏打ちされた応用力を身に付け、希望職に必要な専門性を付加する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	2024SS7トリエール第5回テキスタイル2次加工図案コンテスト(グランプリ、準グランプリ)、2024年度第13回デコリメイクチャレンジ展(特別賞)、第98回装苑賞(装苑賞、入選)、第24回YKK77スニングアワード(グランプリ、入選)、G-FRANO Denim Disegno Award 2024・2025(入賞)、KAIHAT & Head-piece 2024(入選)、第61回全国ファッションコンテスト(入選)、第5回JEA刺繍コンテストデザイン部門(最優秀賞、優秀賞、デザイン賞)、革コン2024(入賞)、トコヤファッションコンテスト2024(入賞)他								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,285 単位時間			375 単位時間	2,910 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)			留學生割合(B/A)	中退率			
330人	281人	11人			0%	11%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		90人						
	■就職希望者数(D)		67人						
	■就職者数(E)		64人						
	■地元就職者数(F)		41人						
	■就職率(E/D)		96%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		64%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		71%						
	■進学者数		2人						
	■その他								
	(令和6年度卒業者に關する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) アダストリア、Dolls、ディーゼルジャパン、ハラダ、マークリー、小泉アパレル、アズノagas、三澤、へへ、ナルミヤインターナショナル、シティーヒル、ドリーム、トフチャブ、ワタナベウエディング、さえら、オンワード樫山、ファニー、IAAZAJ、ファイワンプアクトリー、ハル、プレディング、瀧定大阪、ティフサックス、アーバンリサーチ、イサムモリタ、エリート、ベイクルース 他									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:	受審年月:			評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html">https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		3,285 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		202 単位時間							
うち必修授業時数		4,110 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		202 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)								
	総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		単位							
うち必修単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		20人						
	計		20人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		20人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

校長直轄下に「教育課程編成委員会」を設置し、企業の要請を十分に生かしつつ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成を図る。具体的には7月と12月に教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム内容や授業科目の見直しを行うほか、就職先である企業における人材の専門性に対する動向、新たに必要となる実務についての知識・技術・技能等を把握分析。教育課程編成委員会での討議の成果を教育課程の編成に迅速に反映できる組織運営を目指す。これにより、職業教育の質の担保に取り組むとともに、学科コースを絞って、委員会の所属先以外の企業からヒアリングやアンケート等を別途実施し、職種ごとに企業等が求める知識・技術・技能を把握。この結果を教育課程編成委員会で検討していく計画である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
 教育課程編成委員会の位置づけ



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
萩原 直樹	株式会社アーバンリサーチ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小林 義歩	マツオインターナショナル株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志貴 昌弘	シード株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
河野 あゆみ	株式会社エーツー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 (年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月17日 10:30～12:00

第2回 令和7年7月2日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の要請を十分に生かしつつ、実務的かつ専門的な職業教育に主体的に取り組む基本姿勢を堅持。この立場で教育課程編成委員会の私的や意見をどのように授業科目の編成、授業内容方法の改善に繋げていくかについては学内に設置している「学科長会議」(校長・学科長等で編成)において討議し、企業側の要請度合い、新しい成長性、知識・技術の高度化等の視点から分析し、優先順位を付けて教育課程の編成に取り組んでいく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携の中で学業成果を発揮するとともに、実践的かつ専門的な職業教育に必要な最新の知識・技術・技量の習得を目指し、学生の多様な職業教育ニーズに対応する。これと並行して企業等との連携を通し、組織運営、業界活動に触れることで企業等に対する理解、社会性やコミュニケーション能力を高め、社会・職業に円滑に移行させることを基本に置く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「アダプティブファッションショー」の衣装製作。重症心身障がい者をモデルに、パートナー(介助者)の方々が着脱しやすい服のリメイクを行い、ファッションショーとして披露。TPOにあったオシャレなスタイリングはもちろん、着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う。本校においては、パターンナーコース13名が5チームに分かれ4つのシーンを選び、1チーム1体。全5スタイリングを発表。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
商品プランニングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
ファッションドローイングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファッションドローイングⅠで習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
パターンプロダクトⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
サンプルメイキングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
素材知識Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	尾州産地見学	連携企業等:	中伝毛織
期間:	令和6年8月27日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	播州産地見学	連携企業等:	植山織物
期間:	令和6年9月3日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	妙中パイル織物
期間:	令和6年9月12日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年10月9日	対象:	教員
内容:	発達障害等のある生徒が安心して学ぶために(生徒指導)		
研修名:	教職員のための情報交換会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年11月13日	対象:	教員
内容:	多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	岡田織物
期間:	令和7年9月11日	対象:	教員4
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	岡田織物
期間:	令和7年9月11日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	播州産地見学	連携企業等:	植山織物
期間:	令和7年9月26日	対象:	教員4
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教職員のための情報交換会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年6月27日	対象:	教員3
内容:	多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について		
研修名:	新任教員研修会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年8月	対象:	教員2
内容:	専修学校と精度、専修学校における職業教育、専修学校教育の在り方と授業実施、学生・教員の為の実践心理、人権に関する基礎知識、専修学校教員のための個人情報保護法		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価の取組を通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図る。学校関係者評価では、実施に当たって企業関係者、保護者、卒業生等、学校の自己評価の結果等について評価することで、

- ・学校自己評価の客観性や透明性を高める。
- ・学校、企業、地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、学校運営の改善に繋がる連携効果を引き出す事を狙いとする。

学校は、創立以来「社会への還元」を理念に、全ての学生に最良のファッション教育を提供する事を目標としているが、年度ごとの重点課題、方針を明確化し、この達成に向けた具体的な取組を新しい評価項目として設定している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・教育人材像、学校の特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織や意思決定、人事や賃金での処遇、意思決定システム、情報システム等の業務効率化
(3) 教育活動	教育目標・人材養成像、到達可能性の知識・技術・人間性、カリキュラム体系化、科目の適正な位置付け、授業評価の実施、教員の要件・確保、成績評価・単位認定、資格取得、地域社会との連携
(4) 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率低減、卒業生・在校生の社会的活躍の把握
(5) 学生支援	就職・進学指導の体制、学生相談、学生の経済的側面と支援、学生の健康管理、課外活動支援、学生の生活環境、保護者との連携、卒業生支援、留学支援と海外教育機関との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップや海外研修体制の整備、防犯対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さ、学生募集での教育効果の伝達、入学選考基準、学納金の妥当性
(8) 財務	財務基盤の安定、予算・収支計画の有効性、会計監査、情報公開の体制整備
(9) 法令等の遵守	法令、設備基準の遵守、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施、改善取組、自己点検・自己評価の公表
(10) 社会貢献・地域貢献	-
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

大阪文化服装学院では、これまで保護者を対象に就職説明会を開催し、学校の教育方針、施設・設備の整備拡充状況、就職対策、特待生等の学生支援について、説明責任を果たす一方で、自己点検・自己評価にも並行してとり組んできた。今回、自己評価と学校関係者評価を一体化して推進するに当たり、ステークホルダーとして企業、関係団体等のニーズを踏まえた具体的な評価項目の絞り込みを通して、教育内容、授業方針、学校マネジメントの改善に活用したい。特に経営陣の経営管理能力の向上、教職員の研修機会を確保する事で、資質、スキルアップ、教員の関係業界との交流を通じ、卓越した実践・実務型の職業教育能力を身に付けた教員育成を図る。

・少子化の影響が進んでおり、学校業界が連携して情報交換等を強化しながら運営する事が必要であり、文化服装学院連鎖講協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、関西ファッションカレッジコンソーシアム等の組織をファッションを通じて、より一層の情報交換を行っていく。

・起業家を育てる事を目的とした企業とのコラボを研究する必要があるが、大学ではそのような取組もなされており、専門学校においてもカリキュラムに取り入れる必要について検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
片岡 敏哲	大阪市泉尾工業高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩光 栄太郎	文化すみれ会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
大黒 正人	保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に学校の理念や教育方針について正しく理解してもらうため、学校の基本情報を積極的に開示、提供する。これを通じて、教職員、生徒、企業、保護者、地域間で共通の理解を深め、教育活動の活性化と運営の円滑化を図る。提供手段として、ホームページ、印刷物、学校案内パンフレットなど多様化させるとともに、わかりやすさにも配慮する。また提供に当たって、個人情報の取扱いについて十分に留意する事とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材の養成の目標、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先等、学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成、授業時数))、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得する資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	教職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技等の取組み、就職支援等への取組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み
(7)学生納付金・修学支援	奨学金、授業料免除等の案内等
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ、派遣、海外の学校等との交流
(11)その他	生活ガイドブックの作成、配布

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

授業科目等の概要

(ファッション専門課程 ファッションクイエイター学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ファッションデザイン I	ファッションデザインの基礎となる様々なテーマを基にインスピレーションから発想し、デザインの展開方法を学ぶ。	1通	120			○		○		○	○	
2	○		ファッションドローイング I	ファッションドローイングの基礎となる人体の描き方や、素材の表現方法を学ぶ。	1通	120			○		○			○	
3	○		パターンプロダクト I	原型の成り立ちから各アイテムの製図理論と服飾造形の基礎知識を学び、平面製図を理解しながら応用力を身に付ける。	1通	360			○		○			○	
4	○		サンプルメーキング I	服作りの基礎となる縫製技術を学び、部分縫いから作品制作までを通して応用力を身に付ける。	1通	240			○		○		○	○	
5	○		立体裁断 I	立体構造の意味を学び、身体（立体）の構造を理解し、パーツの適切な分量を知る。また、衣服制作において地の目の必要性を学ぶ。	1後	30			○		○			○	
6	○		素材知識 I	ファッション業界の重要な基礎知識である素材の知識を習得し、ビジネス・クリエイティブそれぞれの分野において実践で活用できる事。	1通	45			○		○			○	
7	○		マーケットリサーチ	ファッション業界で基礎となるトレンド、ファッション感性、ターゲットの知識を学び、またリサーチを通して市場の流れを理解する。	1後	15			○		○			○	
8	○		ファッションカラー	ファッション業界においての業務遂行上必要な色彩の基礎知識、ならびに色彩感覚の向上と的確な色彩運用能力の習得を目的とする。	1通	60			○		○		○		
9	○		西洋服装史	西洋服装の基礎知識を学び、時代や地域、社会、芸術との関わりを知る。	1後	30			○		○		○		
10	○		ビジネスコミュニケーション I	ビジネス現場において求められる社会人としての基礎能力を理解し、身につけさせる。中でも、組織の理解、組織の中で仕事や生活するために必要な人間関係調整力をマナーの授業を通じて学習する。	1通	60			○		○		○		
11	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	1通	30			○		○		○		

12	○		商品プランニング I	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	2通	120			○	○	○	○	○	
13	○		ファッションドローイング II	ファッションドローイング I で習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	2通	120			○	○			○	○
14	○		パターンプロダクト II	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	2通	360			○	○			○	○
15	○		サンプルメイキング II	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	2通	120			○	○			○	○
16	○		立体裁断 II	身体（立体）の構造を理解し、パーツの適切な分量を知る。また、衣服制作において地の目の必要性を学ぶ。	2通	120			○	○				○
17	○		素材知識 II	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	2通	45			○				○	○
18	○		就職対策 I	ファッションビジネスの現場において求められる社会人基礎能力を身に付ける為の講義・実践を通して理解、習得する。	2後	15			○				○	○
19	○		ファッションビジネス論	ファッションビジネスの現場において求められる社会人基礎能力を身に付ける為の講義・実践を通して理解、習得する。	2前	15			○					○
20	○		ビジネスコミュニケーション II	ビジネス現場において求められる社会人としての基礎能力を理解し、身につけさせる。中でも、組織の理解、組織の中で仕事や生活するために必要な人間関係調整力をマナーの授業を通じて学習する。	2前	30			○				○	○
21	○		3Dモデリスト I	2DのCADで作図されたパターンを立体の形状に仕上げる技術を持つ「3Dモデリスト」を育成する。	2通	120			○				○	○
22	○		3Dモデリスト研究	3DCADソフト「CLO」に加え、「substance」「BLENDER」を駆使し、実物と遜色のない3DCGを作成する。	2後	60			○				○	○
23	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なビジュアルに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	2通	30			○				○	○
24	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	2通	30			○				○	○
25	○		商品プランニング III	リサーチ方法や企画提案力を応用し、就職先企業に向けた商品企画を提案する。ポートフォリオの作成。	3通	120			○				○	○
26	○		パターンプロダクト III	専門職として仕事内容の理解を深め、特殊素材の専門知識や特殊パターンの手法を学び、素材特性を考えたパターン技術を身に付け応用へと繋げる。	3通	300			○				○	○

27	○		サンプルメーカーキングⅢ	特殊素材の取扱いから縫製技術を習得。グループ・ブランドコレクションの発表に向けて、ブランドを意識した素材のテクニクやシルエットの研究。各自が学んできた専門コースの技術を発揮しながら作品制作を行う。	3通	120			○	○	○					
28	○		立体裁断Ⅲ	立体の構成を理解、ターツと地の目の重要性を学ぶ。服のバランス感覚を養う。	3前	60			○	○						○
29	○		就職対策Ⅱ	就職活動で行われる実技試験や面接に対応できる力を養う。	3前	30		○		○	○					
30	○		卒業制作	3年間の集大成として各コースで学んだ知識や技術を活かし、グループでブランドを立ち上げショー形式で発表する。グループで話し合い、トレンドや社会情勢を分析しデザインを発想し制作。コーディネート力や見せ方、演出の仕方を考え表現力を身に付けると共に各自の責任感やコミュニケーション力を身に付ける。	3後	120			○	○	○	○				
31	○		3DモデリストⅡ	3DCADソフト「CLO」に加え、「substance」[BLENDER]を駆使し、実物と遜色のない3DCGを作成する。テクニク、パタン的な要素を兼ね備え、グラフィックに特化したマルチクリエイターの育成を目指す。	3前	60			○	○		○				
32		○	3Dモデリスト研究	3DCADソフト「CLO」に加え、「substance」[BLENDER]を駆使し、実物と遜色のない3DCGを作成する。	3通	120			○	○						○
33	○		フィル・イン・メンズプランニング	子供の成長過程においての衣服のデザイン・プランニングを展開できる方法を学ぶ。「メンズウェア」のルーツ、スポーツウェアの「機能」を学び、表現する方法を学ぶ。	3前	30			○	○		○				
34	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	3通	30			○			○	○			
合計					34 科目			3285 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各学科の在学期間に定められた履修規定に従って科目の授業時数を修得することにより進級卒業が認められる。		1学年の学期区分	2期
履修方法：定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験またはレポート、作品、成果物提出が其々の科目で要件を満たした場合。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

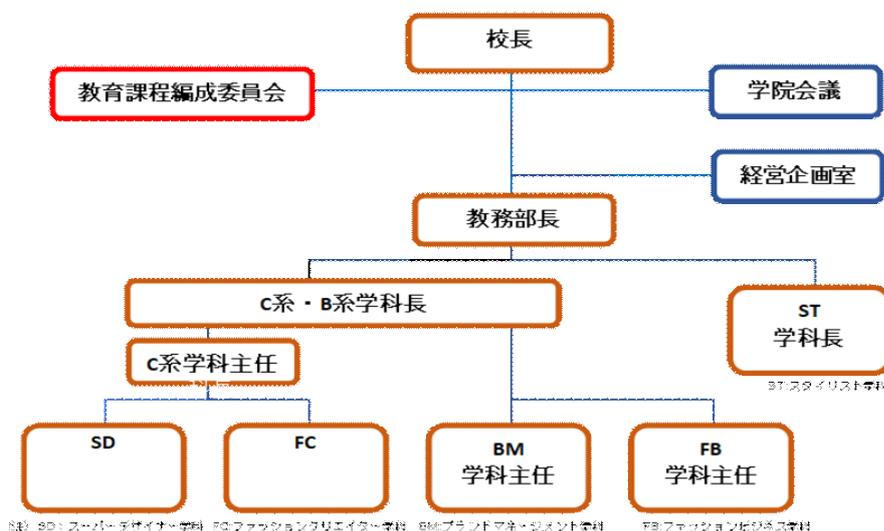
学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
大阪文化服装学院		昭和51年10月1日		和田 康彦		〒 532-0005 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人ミクニ学園		昭和23年1月23日		豊田 晃敏		〒 532-0555 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371				
分野	認定課程名		認定学科名		専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
服飾・家政	ファッション専門課程		ブランドマネージメント学科		平成20(2008)年度	—	平成26(2014)年度			
学科の目的	市場起点の発想で商品を企画、ブランド構築できるプロデューサー育成のコース。アパレル商品演習(パターン・縫製)、ブランドプロデュース企画(オリジナル商品開発)等の授業科目を導入。販売職にとどまらず、総合職、企画職として就職できるカリキュラムを充実。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	9月から12月まで、HEP FIVEにて学生ショップ「CEANGAIL」をオープン。トータル売り上げは、195万円。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			3,000 単位時間	1,365 単位時間	1,635 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率				
100人	56人		2人		0%	19%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		14人							
	■就職希望者数(D)		13人							
	■就職者数(E)		13人							
	■地元就職者数(F)		11人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		85%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		93%							
	■進学者数		0人							
	■その他									
	(令和6年度卒業者に關する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) マッシュHD、アーバンリサーチ、青野工房、ハロクジャパンリミテッド、エレメントール、チャンス・ツウ、ヒューマンフォーラム、CHAPPIE、T.SI、合同会社L'AXE、おおまえ、Dxias、株式会社アイガット								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html">https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html</a>									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					3,000 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					163 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					202 単位時間				
	うち必修授業時数					4,110 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					163 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					202 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した演習の単位数					単位					
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					20人				
	計					20人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					20人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

校長直轄下に「教育課程編成委員会」を設置し、企業の要請を十分に生かしつつ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成を図る。具体的には7月と12月に教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム内容や授業科目の見直しを行うほか、就職先である企業における人材の専門性に対する動向、新たに必要となる実務についての知識・技術・技能等を把握分析。教育課程編成委員会での討議の成果を教育課程の編成に迅速に反映できる組織運営を目指す。これにより、職業教育の質の担保に取り組むとともに、学科コースを絞って、委員会の所属先以外の企業からヒアリングやアンケート等を別途実施し、職種ごとに企業等が求める知識・技術・技能を把握。この結果を教育課程編成委員会で検討していく計画である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
 教育課程編成委員会の位置づけ



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
萩原 直樹	株式会社アーバンリサーチ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小林 義歩	マツオインターナショナル株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志貴 昌弘	シード株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
河野 あゆみ	株式会社エーツー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月17日 10:30～12:00

第2回 令和7年7月2日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の要請を十分に生かしつつ、実務的かつ専門的な職業教育に主体的に取り組む基本姿勢を堅持。この立場で教育課程編成委員会の私的や意見をどのように授業科目の編成、授業内容方法の改善に繋げていくかについては学内に設置している「学科長会議」(校長・学科長等で編成)において討議し、企業側の要請度合い、新しい成長性、知識・技術の高度化等の視点から分析し、優先順位を付けて教育課程の編成に取り組んでいく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携の中で学業成果を発揮するとともに、実践的かつ専門的な職業教育に必要な最新の知識・技術・技量の習得を目指し、学生の多様な職業教育ニーズに対応する。これと並行して企業等との連携を通し、組織運営、業界活動に触れることで企業等に対する理解、社会性やコミュニケーション能力を高め、社会・職業に円滑に移行させることを基本に置く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「アダプティブファッションショー」の衣装製作。重症心身障がい者をモデルに、パートナー(介助者)の方々が着脱しやすい服のリメイクを行い、ファッションショーとして披露。TPOにあったオシャレなスタイリングはもちろん、着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う。本校においては、パタンナーコース13名が5チームに分かれ4つのシーンを選び、1チーム1体。全5スタイリングを発表。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
商品プランニングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
ファッションドローイングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファッションドローイングⅠで習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
パターンプロダクトⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
サンプルメイキングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
素材知識Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 尾州産地見学	連携企業等: 中伝毛織
期間: 令和6年8月27日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和6年9月3日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 妙中パイル織物
期間: 令和6年9月12日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権教育研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年10月9日	対象: 教員
内容: 発達障害等のある生徒が安心して学ぶために(生徒指導)	
研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年11月13日	対象: 教員
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和7年9月26日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年6月27日	対象: 教員3
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	
研修名: 新任教員研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年8月	対象: 教員2
内容: 専修学校と精度、専修学校における職業教育、専修学校教育の在り方と授業実施、学生・教員の為の実践心理、人権に関する基礎知識、専修学校教員のための個人情報保護法	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価の取組を通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図る。学校関係者評価では、実施に当たって企業関係者、保護者、卒業生等、学校の自己評価の結果等について評価することで、

- ・学校自己評価の客観性や透明性を高める。
- ・学校、企業、地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、学校運営の改善に繋がる連携効果を引き出す事を狙いとする。

学校は、創立以来「社会への還元」を理念に、全ての学生に最良のファッション教育を提供する事を目標としているが、年度ごとの重点課題、方針を明確化し、この達成に向けた具体的な取組を新しい評価項目として設定している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・教育人材像、学校の特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織や意思決定、人事や賃金での処遇、意思決定システム、情報システム等の業務効率化
(3) 教育活動	教育目標・人材養成像、到達可能性の知識・技術・人間性、カリキュラム体系化、科目の適正な位置付け、授業評価の実施、教員の要件・確保、成績評価・単位認定、資格取得、地域社会との連携
(4) 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率低減、卒業生・在校生の社会的活躍の把握
(5) 学生支援	就職・進学指導の体制、学生相談、学生の経済的側面と支援、学生の健康管理、課外活動支援、学生の生活環境、保護者との連携、卒業生支援、留学支援と海外教育機関との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップや海外研修体制の整備、防犯対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さ、学生募集での教育効果の伝達、入学選考基準、学納金の妥当性
(8) 財務	財務基盤の安定、予算・収支計画の有効性、会計監査、情報公開の体制整備
(9) 法令等の遵守	法令、設備基準の遵守、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施、改善取組、自己点検・自己評価の公表
(10) 社会貢献・地域貢献	-
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

大阪文化服装学院では、これまで保護者を対象に就職説明会を開催し、学校の教育方針、施設・設備の整備拡充状況、就職対策、特待生等の学生支援について、説明責任を果たす一方で、自己点検・自己評価にも並行してとり組んできた。今回、自己評価と学校関係者評価を一体化して推進するに当たり、ステークホルダーとして企業、関係団体等のニーズを踏まえた具体的な評価項目の絞り込みを通して、教育内容、授業方針、学校マネジメントの改善に活用したい。特に経営陣の経営管理能力の向上、教職員の研修機会を確保する事で、資質、スキルアップ、教員の関係業界との交流を通じ、卓越した実践・実務型の職業教育能力を身に付けた教員育成を図る。

・少子化の影響が進んでおり、学校業界が連携して情報交換等を強化しながら運営する事が必要であり、文化服装学院連鎖講協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、関西ファッションカレッジコンソーシアム等の組織をファッションを通じて、より一層の情報交換を行っていく。

・起業家を育てる事を目的とした企業とのコラボを研究する必要があるが、大学ではそのような取組もなされており、専門学校においてもカリキュラムに取り入れる必要について検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
片岡 敏哲	大阪市泉尾工業高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩光 栄太郎	文化すみれ会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
大黒 正人	保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に学校の理念や教育方針について正しく理解してもらうため、学校の基本情報を積極的に開示、提供する。これを通じて、教職員、生徒、企業、保護者、地域間で共通の理解を深め、教育活動の活性化と運営の円滑化を図る。提供手段として、ホームページ、印刷物、学校案内パンフレットなど多様化させるとともに、わかりやすさにも配慮する。また提供に当たって、個人情報の取扱いについて十分に留意する事とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材の養成の目標、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先等、学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成、授業時数))、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得する資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	教職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技等の取組み、就職支援等への取組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み
(7)学生納付金・修学支援	奨学金、授業料免除等の案内等
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ、派遣、海外の学校等との交流
(11)その他	生活ガイドブックの作成、配布

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

授業科目等の概要

(ファッション専門課程 ブランドマネジメント学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールワーク I	接客販売の基本心得と基本動作の習得 コミュニケーションスキルアップ	1通	120		○			○			○	
2	○		マーケティング概論	広範囲にわたるファッションビジネスの歴史と基礎を知り、日々の勉強に役立てる。	1通	120		○			○		○		
3	○		商品知識	ファッション業界の仕事に就くためには、お客様に対して取り扱うファッション商品の説明や提案が求められる。その為に必要なアイテム分類や名称、シルエット、ディテール知識、商品の良さを伝えるスキルを修得する。	1通	60			○		○		○		
4	○		コーディネート論	お客様のライフスタイルやテイストにマッチしたコーディネートが提案できる事を目的とする。また、セレクトアップに繋がるコーディネートテクニックを修得する。	1通	60		○			○			○	
5	○		ファッションカラー	色彩学の基礎を習得し、コーディネートにおいて、正確に活用する知識を身に付ける。	1通	60		○			○			○	
6	○		素材知識 I	素材の成り立ちを理解し、服の基礎となる素材知識を習得する。素材の特性を知り、ファッション販売に必要な取り扱いを説明できるようになる。	1通	45		○			○			○	
7	○		ファッションデザイン I	ファッションデザインの基礎構造を学習し、イラストのバランス感覚を養う。	1通	60			○		○			○	
8	○		ファッション商品演習 I	洋服の立体構造を理解する事を目的とする。基本となるスカートをアレンジし実物作成の上、使用理解。	1通	120			○		○			○	
9	○		WEBビジネス基礎	ファッションのビジネス現場に対応するための知識とWEB知識の構築。	1通	60		○			○			○	
10	○		西洋服装史	ファッションデザインやコーディネートの基礎知識として西洋の服装史を学ぶ。	1後	30		○			○			○	
11	○		マーケティング	小売店舗を中心とした、ファッションビジネスについて素材産業から、メーカー、セレクトショップまで広範囲の領域を学習し、2年次以降のセレクトショップ企画の基礎になる知識を学び、売場計数も習得する。	1通	120		○			○			○	

12	○		マーケット研究	ファッションビジネスにおける消費行動・小売業・アパレル産業の概要・計数を学び、マーケティングの流れを把握し、実践的にMD計画を立て身に付ける。	1通	60			○	○	○								
13	○		トレンド分析リサーチ	ファッションとトレンドの基礎知識を理解し、マーケットリサーチのテクニックを磨きつつ、自分の「好き」を見つけ、世界観を確立しアプロットができるスキルと感性を養う。	1通	120			○	○									
14	○		業界情報	業界のトップリーガ-を招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	1前	15			○		○								○
15	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	1後	15			○			○	○						
16	○		セールスワークⅡ	9月からの企業実習に向け、接客販売の基本心徳と基本動作の習得。企業実習経験をより良くするためのビジネスコミュニケーションスキルアップ。	2通	60			○			○							○
17	○		AI概論Ⅰ	今後ファッション業界にも必要なスキルとなるAIの活用について、基本的な活用方法を理解し、実際に利用する事で仕事の効率化を図れる人材を育成する。	2通	60			○			○							○
18	○		VMDⅠ	小売販売、オリジナルブランドのシーズンコンセプトや品揃え政策を反映させた、魅せる売り場づくりであるヴィジュアルマーチャンダイジングを学び、各コースの特性に合わせ、活用できる人事を育成する。	2通	120			○			○							○
19	○		ファッションドローイングⅡ	服の構造を理解し、ハンガーイラストとスタイル画の表現力のバリエーションを増やす。	2通	60			○			○							○
20	○		素材知識Ⅱ	素材の染色・加工の工程を経ることによる特性、効果を理解する。歴史や地域性を踏まえた柄の種類と名称を覚え、見識を深める。素材の感性による言語表現を理解し、使用できるようになる。	2通	45			○			○							○
21	○		アパレル商品演習Ⅱ	洋服の立体構造を理解する事を目的とする。基本となるパンツをアレンジし実物作成の上、使用理解。	2通	120			○			○							○
22	○		グラフィックデザインⅠ	DTPソフトを習得し、ショップカードやチラシ、ポストカード等のツール作成方法を学ぶ。	2通	120			○			○							○
23	○		ビジネスコミュニケーション	ファッション業界への知識と理解を深め、就職活動に向けた研修や面接に必要な書類を準備。就職希望先へのアプローチや、方向性志望動機などを明確なものにする。	2通	60			○			○							○
24	○		インターンシップ	セレクトショップやファッションビル、百貨店でスタッフとして、現場での就業を実際に経験する。	2後	60			○			○							○
25	○		海外研修	ファッションビジネスを学ぶ世界中の若者が集まるアメリカ屈指のファッションスクールであるニューヨークFIT（ニューヨーク州立ファッション工科大学）校で、世界標準の発想・MD・VMDを学び、世界に通じるビジネスの「発想力」を高める。	2後	30			○			○							○
26	○		就職対策Ⅰ	学生自身が進路やキャリアについて考え、活発に行動できるよう、自己分析を徹底し自らの目標を明確にする。就職活動の流れを把握する。	2後	30			○			○							○



42	○		デザイン企画	2年次に習得した企画立案方法を用い、オリジナルの企画と商品生産。マーケティングの授業と連動し行う。ブランドはWEBショップにて展開し販売する。	3 後	60			○		○		○		○
43	○		店舗運営	WEBショップの運営を行うことで、事前に企画・準備したプランをお客様の視点に立った入りやすく触りやすく買いやすい店舗にしていく。店舗の運営を通して実証、検証を行い、計画の変更、変更の実施など運営の実際を行い、知識を経験として定着させる。	3 後	60			○		○	○	○		○
44	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	3 前	15			○		○				○
45	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	3 後	15			○			○	○		
合計						45	科目	3000 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各学科の在学期間に定められた履修規定に従って科目の授業時数を修得することにより進級卒業が認められる。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験またはレポート、作品、成果物提出が其々の科目で要件を満たした場合。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

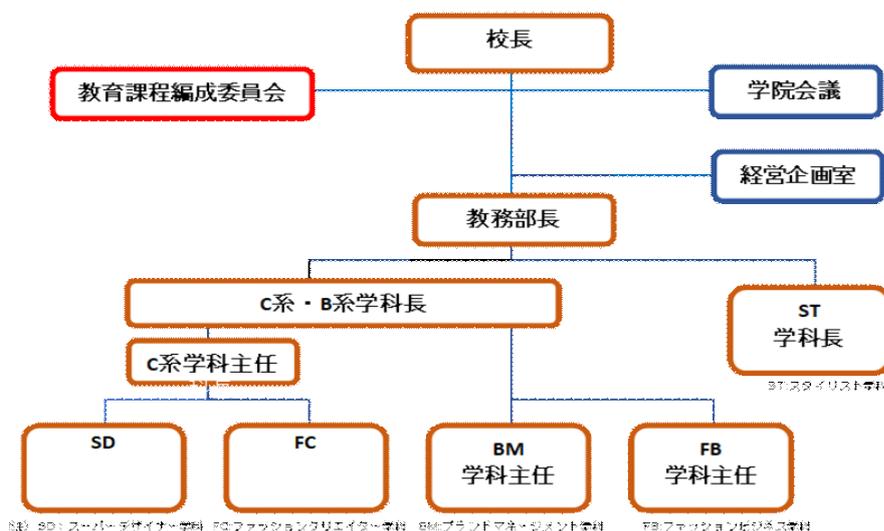
学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
大阪文化服装学院	昭和51年10月1日	和田 康彦	〒 532-0005 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人ミクニ学園	昭和23年1月23日	豊田 晃敏	〒 532-0555 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
服飾・家政	ファッション専門課程	ファッションビジネス学科	平成 7(1995)年度	—	平成26(2014)年度			
学科の目的	FA、プレス、バイヤー、SNSを駆使したインフルエンサー等のアパレル小売業界で活躍できる多様な人材を育成。販売員に必須の商品知識、販売実務、素材知識、コーディネート論に加え、マーケティングやMD、VMD理論を学ぶため、幅広い授業科目の編成。1年次で全員が店頭で販売インターンシップに参加。2年次からはショップスタッフ、バイヤー、プレスインフルエンサーの中から選択コースへ対応した科目を選ぶ。選択科目は3コマ(全体の20パーセント程度)							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	PAL FOUNDATION CUP(プラチナ賞)、ファッションビジネス学会FBアワードY2024(第1位)、URBAN RESEARCH Style Ambassador Salesaward(FirstPrize、SecondPrize、ThirdPrize、BestAssistant)、「アーバンリサーチ」スタイルアンバサダーのコラボ取組、韓国バイイング研修							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,845 単位時間	870 単位時間	975 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
75人	48人	2人	0%	17%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		33人					
	■就職希望者数(D)		21人					
	■就職者数(E)		21人					
	■地元就職者数(F)		21人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100%					
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		64%						
■進学者数		0人						
■その他								
(令和 6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ユナイテッドアローズ、MARK STYLER、ミニストリー、ディーゼルジャパン、ジョイックスコーポレーション、ジェオグラフィ、アタリスト、RINONE、マッシュスタイルラボ、ナイスクラブ、エス・グルーヴ、ナルミヤインターナショナル、マッシュアップ、ストライフインターナショナル、								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html">https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,845 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		202 単位時間						
うち必修授業時数		4,110 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		163 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		202 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		20人					
	計		20人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		20人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

校長直轄下に「教育課程編成委員会」を設置し、企業の要請を十分に生かしつつ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成を図る。具体的には7月と12月に教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム内容や授業科目の見直しを行うほか、就職先である企業における人材の専門性に対する動向、新たに必要となる実務についての知識・技術・技能等を把握分析。教育課程編成委員会での討議の成果を教育課程の編成に迅速に反映できる組織運営を目指す。これにより、職業教育の質の担保に取り組むとともに、学科コースを絞って、委員会の所属先以外の企業からヒアリングやアンケート等を別途実施し、職種ごとに企業等が求める知識・技術・技能を把握。この結果を教育課程編成委員会で検討していく計画である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
 教育課程編成委員会の位置づけ



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
萩原 直樹	株式会社アーバンリサーチ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小林 義歩	マツオインターナショナル株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志貴 昌弘	シード株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
河野 あゆみ	株式会社エーツー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 (年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月17日 10:30～12:00

第2回 令和7年7月2日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の要請を十分に生かしつつ、実務的かつ専門的な職業教育に主体的に取り組む基本姿勢を堅持。この立場で教育課程編成委員会の私的や意見をどのように授業科目の編成、授業内容方法の改善に繋げていくかについては学内に設置している「学科長会議」(校長・学科長等で編成)において討議し、企業側の要請度合い、新しい成長性、知識・技術の高度化等の視点から分析し、優先順位を付けて教育課程の編成に取り組んでいく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携の中で学業成果を発揮するとともに、実践的かつ専門的な職業教育に必要な最新の知識・技術・技量の習得を目指し、学生の多様な職業教育ニーズに対応する。これと並行して企業等との連携を通じ、組織運営、業界活動に触れることで企業等に対する理解、社会性やコミュニケーション能力を高め、社会・職業に円滑に移行させることを基本に置く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「アダプティブファッションショー」の衣装製作。重症心身障がい者をモデルに、パートナー(介助者)の方々が着脱しやすい服のリメイクを行い、ファッションショーとして披露。TPOにあったオシャレなスタイリングはもちろん、着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う。本校においては、パターンコース13名が5チームに分かれ4つのシーンを選び、1チーム1体。全5スタイリングを発表。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
商品プランニングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
ファッションドローイングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファッションドローイングⅠで習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
パターンプロダクトⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
サンプルメイキングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
素材知識Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	尾州産地見学	連携企業等:	中伝毛織
期間:	令和6年8月27日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	播州産地見学	連携企業等:	植山織物
期間:	令和6年9月3日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	妙中パイル織物
期間:	令和6年9月12日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年10月9日	対象:	教員
内容:	発達障害等のある生徒が安心して学ぶために(生徒指導)		
研修名:	教職員のための情報交換会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年11月13日	対象:	教員
内容:	多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	岡田織物
期間:	令和7年9月11日	対象:	教員4
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	高野口産地見学	連携企業等:	岡田織物
期間:	令和7年9月11日	対象:	教員3
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		
研修名:	播州産地見学	連携企業等:	植山織物
期間:	令和7年9月26日	対象:	教員4
内容:	産地訪問による産地の背景や素材についての研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教職員のための情報交換会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年6月27日	対象:	教員3
内容:	多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について		
研修名:	新任教員研修会	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和7年8月	対象:	教員2
内容:	専修学校と精度、専修学校における職業教育、専修学校教育の在り方と授業実施、学生・教員の為の実践心理、人権に関する基礎知識、専修学校教員のための個人情報保護法		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価の取組を通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図る。学校関係者評価では、実施に当たって企業関係者、保護者、卒業生等、学校の自己評価の結果等について評価することで、

- ・学校自己評価の客観性や透明性を高める。
- ・学校、企業、地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、学校運営の改善に繋がる連携効果を引き出す事を狙いとする。

学校は、創立以来「社会への還元」を理念に、全ての学生に最良のファッション教育を提供する事を目標としているが、年度ごとの重点課題、方針を明確化し、この達成に向けた具体的な取組を新しい評価項目として設定している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・教育人材像、学校の特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織や意思決定、人事や賃金での処遇、意思決定システム、情報システム等の業務効率化
(3) 教育活動	教育目標・人材養成像、到達可能性の知識・技術・人間性、カリキュラム体系化、科目の適正な位置付け、授業評価の実施、教員の要件・確保、成績評価・単位認定、資格取得、地域社会との連携
(4) 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率低減、卒業生・在校生の社会的活躍の把握
(5) 学生支援	就職・進学指導の体制、学生相談、学生の経済的側面と支援、学生の健康管理、課外活動支援、学生の生活環境、保護者との連携、卒業生支援、留学支援と海外教育機関との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップや海外研修体制の整備、防犯対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さ、学生募集での教育効果の伝達、入学選考基準、学納金の妥当性
(8) 財務	財務基盤の安定、予算・収支計画の有効性、会計監査、情報公開の体制整備
(9) 法令等の遵守	法令、設備基準の遵守、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施、改善取組、自己点検・自己評価の公表
(10) 社会貢献・地域貢献	-
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

大阪文化服装学院では、これまで保護者を対象に就職説明会を開催し、学校の教育方針、施設・設備の整備拡充状況、就職対策、特待生等の学生支援について、説明責任を果たす一方で、自己点検・自己評価にも並行してとり組んできた。今回、自己評価と学校関係者評価を一体化して推進するに当たり、ステークホルダーとして企業、関係団体等のニーズを踏まえた具体的な評価項目の絞り込みを通して、教育内容、授業方針、学校マネジメントの改善に活用したい。特に経営陣の経営管理能力の向上、教職員の研修機会を確保する事で、資質、スキルアップ、教員の関係業界との交流を通じ、卓越した実践・実務型の職業教育能力を身に付けた教員育成を図る。

・少子化の影響が進んでおり、学校業界が連携して情報交換等を強化しながら運営する事が必要であり、文化服装学院連鎖講協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、関西ファッションカレッジコンソーシアム等の組織をファッションを通じて、より一層の情報交換を行っていく。

・起業家を育てる事を目的とした企業とのコラボを研究する必要があるが、大学ではそのような取組もなされており、専門学校においてもカリキュラムに取り入れる必要について検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
片岡 敏哲	大阪市泉尾工業高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩光 栄太郎	文化すみれ会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
大黒 正人	保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に学校の理念や教育方針について正しく理解してもらうため、学校の基本情報を積極的に開示、提供する。これを通じて、教職員、生徒、企業、保護者、地域間で共通の理解を深め、教育活動の活性化と運営の円滑化を図る。提供手段として、ホームページ、印刷物、学校案内パンフレットなど多様化させるとともに、わかりやすさにも配慮する。また提供に当たって、個人情報の取扱いについて十分に留意する事とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材の養成の目標、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先等、学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成、授業時数))、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得する資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	教職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技等の取組み、就職支援等への取組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み
(7)学生納付金・修学支援	奨学金、授業料免除等の案内等
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ、派遣、海外の学校等との交流
(11)その他	生活ガイドブックの作成、配布

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

授業科目等の概要

(ファッション専門課程 ファッションビジネス学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		マーケティング	マーケティングの基礎理論を学び、市場調査を通してファッション業界のシーズンサイクルを理解し、店頭での商品動向と販売戦略を捉える。	1通	120		○			○			○	
2	○		ビジネススキル	広範囲にわたるファッションビジネスの歴史と基礎を知り、日々の勉強に役立てる。	1通	120		○			○		○		
3	○		セールスワーク I	ファッション販売の基礎を身に付け、就職時に即戦力として社会に出る。	1通	120		○			○		○		
4	○		コーディネート1	ファッション業界で働く為に必要なTPOの理解とオケージョンに合うコーディネートを学ぶことが目的。	1通	120		○			○		○		
5	○		商品知識	ファッション業界の仕事に就くためには、お客様に対して取り扱うファッション商品の説明や提案が求められます。その為に必要なアイテムの分類や名称、シルエット、ディテールの知識、商品の良さを伝えるスキルを習得する。	1通	60		○			○		○		
6	○		ファッションカラー	色彩学の基礎を習得し、色を考えてきちんと活用する知識を身に付ける。	1通	60		○			○		○		
7	○		素材知識 I	素材の成り立ちを理解し、服の基礎となる素材知識を習得する。素材の特性を知り、ファッション販売に必要な取り扱い説明が出来るようになる。	1通	45		○			○		○		
8	○		ファッションドローイング	ファッション業界で仕事をしていく上で必要となるデザイン画の表現方法を学ぶ。	1前	30			○		○			○	
9	○		西洋服装史	ファッションデザインやコーディネートの基礎知識として西洋の服装史を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
10	○		フィッティングスキル	パターン、ソーイングの基本的な実習を通して服の構造を理解する。	1前	30			○		○			○	
11	○		デジタルスキル I	様々なアプリケーションを使いながら、コンピューターの基礎知識を学んで行くとともに、インターネットやサーバー、クラウドといったコンピューターを取り巻く環境や周辺機器の知識を身に付ける。	1通	60			○		○			○	

12	○		就職対策Ⅰ	企業・団体からの多大な協力によって実現しているカリキュラムであり、大阪文化服装学院を代表して参加するという意識を持って臨むこと。	1 後	30	○		○	○								
13	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	1 通	60	○			○	○							
14	○		素材知識Ⅱ	素材の染色・加工の工程を経ることによる特性、効果を理解する。歴史や地域性を踏まえた柄の種類と名称を覚え、見識を深める。素材の感性による言語表現を理解し、使用できるようになる。	2 通	60	○			○	○							
15	○		デジタルスキルⅡ	ファッション業界において広く利用されている、コンピュータによるデザインやプレゼンテーション資料作成のスキルは必須である。業界標準的に使われている「Adobeイラストレーター、フォトショップ」操作の基本と活用方法を学び、スキル向上をはかる。	2 通	120	○			○	○							
16	○		就職対策Ⅱ	就職意識を向上させ早期の内定を目指す。	2 前	30	○			○	○							
17	○		卒業制作	ビジネス学科2年間で培った知識・技術を実践し、考える力・コミュニケーション力・社会性を身に付ける。	2 後	120			○		○	○						
18	○		デジタルマーケティング	ニューノーマルなファッション販売員に必須のWeb上での販売手法について、動画での商品紹介やオンラインでのコーディネート提案のスキルを身に付け、就職後の職務に活かす	2 通	60	○			○	○							
19	○		セールスマネジメント	季節変化やトレンドを察知し、ショップに来店して頂くお客様に向けた販売促進計画の立て方を学ぶ。情報収集能力、コミュニケーション能力、発想力を学習する為、様々なコンテンツの特性と役割を理解。その上でお客様が楽しめるイベントとサービスのプランを考える	2 通	300	○			○	○							
20	○		VMD演出	小売業の制作を店舗内の商品や、情報に反映させた売場づくり＝VMDを学ぶ。	2 通	120	○			○	○							
21	○		ヘアメイクアップ	TPOに合わせたヘアメイクアップ提案方法を学び、接客時やInstagram等のSNSに投稿する写真撮影時に、スタイリングに合ったヘアメイクの提案が出来るようになる事が目的。	2 前	30	○			○	○							
22	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	2 前	15	○			○	○							
23	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	2 通	45	○			○	○							
合計						23 科目	1845 単位 (単位時間)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各学科の在学期間に定められた履修規定に従って科目の授業時数を修得することにより進級卒業が認められる。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験またはレポート、作品、成果物提出が其々の科目で要件を満たした場合。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

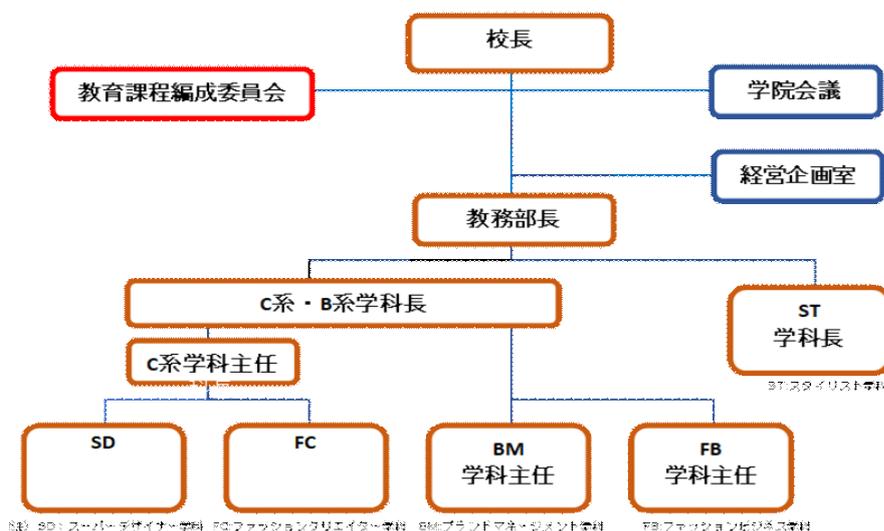
学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
大阪文化服装学院	昭和51年10月1日	和田 康彦	〒 532-0005 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人ミクニ学園	昭和23年1月23日	豊田 晃敏	〒 532-0555 (住所) 大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 (電話) 06-6392-4371					
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
服飾・家政	ファッション専門課程	スタイリスト学科	平成 7(1995)年度	—	平成26(2014)年度			
学科の目的	アシスタントからキャリアアップし、スタイリストとなり幅広く活躍できる人材を育成。スタイリストに必須のスタイルプランニング、ヘアメイクアップ等の授業科目を柱に、スタイリング構成をする為の服作り(パターン・縫製)、素材、カラー知識、写真撮影技術等を学び、1年次後半からフィッター、アシスタントとしてインターンシップに参加。実践感覚を養う。プロのスタイリストを特別講師として招聘し、コーディネート能力向上を図る。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	2024年度F.S.A認定スタイリングアワード AWジュニア級(準グランプリ)、2024年度F.S.A認定スタイリングアワードAWブレイヤー級(グランプリ、準グランプリ)、2024年度株式会社ライフコーポレーション賞、造幣局「桜の通り抜け」でファッションショーを開催、「Panasonic」とコラボ企画を実施、なんばパークス「なんばトリエ」にてスタイリングを披露、ライフコーポレーションとコラボ企画、三澤株式会社とスタイリングコラボ、韓国スタイリング研修							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	1,980 単位数	465 単位数	1,515 単位数	0 単位数	0 単位数	0 単位数
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率				
90人	74人	1人	0%	19%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		27	人				
	■就職希望者数(D)		19	人				
	■就職者数(E)		19	人				
	■地元就職者数(F)		11	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		58	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		70	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 三澤、Qaris、antiqua、インターナショナルレション、シティヒル、アズノヴァス、STカハシエイ、east、マナナ、カインドール、ロビン・インターナショナル、dexi、パッショネ、遠藤彩香、RIKI YAMADA、平松正啓								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html">https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)							
	総授業時数		1,980 単位数					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		163 単位数						
うち企業等と連携した演習の授業時数		202 単位数						
うち必修授業時数		4,110 単位数						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		163 単位数						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		202 単位数						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		20人					
	計		20人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		20人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

校長直轄下に「教育課程編成委員会」を設置し、企業の要請を十分に生かしつつ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力の育成を図る。具体的には7月と12月に教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム内容や授業科目の見直しを行うほか、就職先である企業における人材の専門性に対する動向、新たに必要となる実務についての知識・技術・技能等を把握分析。教育課程編成委員会での討議の成果を教育課程の編成に迅速に反映できる組織運営を目指す。これにより、職業教育の質の担保に取り組むとともに、学科コースを絞って、委員会の所属先以外の企業からヒアリングやアンケート等を別途実施し、職種ごとに企業等が求める知識・技術・技能を把握。この結果を教育課程編成委員会で検討していく計画である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
 教育課程編成委員会の位置づけ



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
萩原 直樹	株式会社アーバンリサーチ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小林 義歩	マツオインターナショナル株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志貴 昌弘	シード株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
河野 あゆみ	株式会社エーツー	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 (年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月17日 10:30～12:00

第2回 令和7年7月2日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の要請を十分に生かしつつ、実務的かつ専門的な職業教育に主体的に取り組む基本姿勢を堅持。この立場で教育課程編成委員会の私的や意見をどのように授業科目の編成、授業内容方法の改善に繋げていくかについては学内に設置している「学科長会議」(校長・学科長等で編成)において討議し、企業側の要請度合い、新しい成長性、知識・技術の高度化等の視点から分析し、優先順位を付けて教育課程の編成に取り組んでいく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携の中で学業成果を発揮するとともに、実践的かつ専門的な職業教育に必要な最新の知識・技術・技量の習得を目指し、学生の多様な職業教育ニーズに対応する。これと並行して企業等との連携を通じ、組織運営、業界活動に触れることで企業等に対する理解、社会性やコミュニケーション能力を高め、社会・職業に円滑に移行させることを基本に置く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「アダプティブファッションショー」の衣装製作。重症心身障がい者をモデルに、パートナー(介助者)の方々が着脱しやすい服のリメイクを行い、ファッションショーとして披露。TPOにあったオシャレなスタイリングはもちろん、着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う。本校においては、パターンコース13名が5チームに分かれ4つのシーンを選び、1チーム1体。全5スタイリングを発表。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
商品プランニングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	発想力とデザイン力を高め、企画力を身に付ける。自己ブランドを立案しリサーチ、企画提案力を学ぶ。グループワークを実施し、協調性やコミュニケーション力を醸成する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
ファッションドローイングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファッションドローイングⅠで習得した基礎をベースに、応用する能力を身に付ける。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
パターンプロダクトⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル製品の重衣料について基礎知識を学び、体型やデザインに応じたデザインパターンの応用を学ぶ。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
サンプルメイキングⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ジャケットやコートの縫製を学ぶことで厚みの展開方法やシルエットを意識したアイロンテクニック、副資材の意味等を理解し応用力を養う。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他
素材知識Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	素材の成り立ちや特性を理解し、服作りの基礎となる素材知識を習得する。	・一般社団法人日本アダプティブファッション協会 ・株式会社パル ・株式会社セレッソ大阪 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定(平成25年12月制定)を定め、企業との連携による教員研修を実施しており、実施時期のない7月後半から8月、3月後半から4月上旬と決めている。また、教職員を対象とした海外留学支援規定(令和2年4月制定)も定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 尾州産地見学	連携企業等: 中伝毛織
期間: 令和6年8月27日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和6年9月3日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 妙中パイル織物
期間: 令和6年9月12日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権教育研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年10月9日	対象: 教員
内容: 発達障害等のある生徒が安心して学ぶために(生徒指導)	
研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年11月13日	対象: 教員
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 高野口産地見学	連携企業等: 岡田織物
期間: 令和7年9月11日	対象: 教員3
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	
研修名: 播州産地見学	連携企業等: 植山織物
期間: 令和7年9月26日	対象: 教員4
内容: 産地訪問による産地の背景や素材についての研修	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教職員のための情報交換会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年6月27日	対象: 教員3
内容: 多様化する学生、生徒の現状と専門学校・高等専修が抱える課題について	
研修名: 新任教員研修会	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和7年8月	対象: 教員2
内容: 専修学校と精度、専修学校における職業教育、専修学校教育の在り方と授業実施、学生・教員の為の実践心理、人権に関する基礎知識、専修学校教員のための個人情報保護法	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価の取組を通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図る。学校関係者評価では、実施に当たって企業関係者、保護者、卒業生等、学校の自己評価の結果等について評価することで、

- ・学校自己評価の客観性や透明性を高める。
- ・学校、企業、地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、学校運営の改善に繋がる連携効果を引き出す事を狙いとする。

学校は、創立以来「社会への還元」を理念に、全ての学生に最良のファッション教育を提供する事を目標としているが、年度ごとの重点課題、方針を明確化し、この達成に向けた具体的な取組を新しい評価項目として設定している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・教育人材像、学校の特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織や意思決定、人事や賃金での処遇、意思決定システム、情報システム等の業務効率化
(3) 教育活動	教育目標・人材養成像、到達可能性の知識・技術・人間性、カリキュラム体系化、科目の適正な位置付け、授業評価の実施、教員の要件・確保、成績評価・単位認定、資格取得、地域社会との連携
(4) 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率低減、卒業生・在校生の社会的活躍の把握
(5) 学生支援	就職・進学指導の体制、学生相談、学生の経済的側面と支援、学生の健康管理、課外活動支援、学生の生活環境、保護者との連携、卒業生支援、留学支援と海外教育機関との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップや海外研修体制の整備、防犯対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さ、学生募集での教育効果の伝達、入学選考基準、学納金の妥当性
(8) 財務	財務基盤の安定、予算・収支計画の有効性、会計監査、情報公開の体制整備
(9) 法令等の遵守	法令、設備基準の遵守、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施、改善取組、自己点検・自己評価の公表
(10) 社会貢献・地域貢献	-
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

大阪文化服装学院では、これまで保護者を対象に就職説明会を開催し、学校の教育方針、施設・設備の整備拡充状況、就職対策、特待生等の学生支援について、説明責任を果たす一方で、自己点検・自己評価にも並行してとり組んできた。今回、自己評価と学校関係者評価を一体化して推進するに当たり、ステークホルダーとして企業、関係団体等のニーズを踏まえた具体的な評価項目の絞り込みを通して、教育内容、授業方針、学校マネジメントの改善に活用したい。特に経営陣の経営管理能力の向上、教職員の研修機会を確保する事で、資質、スキルアップ、教員の関係業界との交流を通じ、卓越した実践・実務型の職業教育能力を身に付けた教員育成を図る。

・少子化の影響が進んでおり、学校業界が連携して情報交換等を強化しながら運営する事が必要であり、文化服装学院連鎖講協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、関西ファッションカレッジコンソーシアム等の組織をファッションを通じて、より一層の情報交換を行っていく。

・起業家を育てる事を目的とした企業とのコラボを研究する必要があるが、大学ではそのような取組もなされており、専門学校においてもカリキュラムに取り入れる必要について検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
糸井 弘一	協同組合関西ファッション連合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
植田 茂和	株式会社玉屋	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
片岡 敏哲	大阪市泉尾工業高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩光 栄太郎	文化すみれ会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
大黒 正人	保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に学校の理念や教育方針について正しく理解してもらうため、学校の基本情報を積極的に開示、提供する。これを通じて、教職員、生徒、企業、保護者、地域間で共通の理解を深め、教育活動の活性化と運営の円滑化を図る。提供手段として、ホームページ、印刷物、学校案内パンフレットなど多様化させるとともに、わかりやすさにも配慮する。また提供に当たって、個人情報の取扱いについて十分に留意する事とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材の養成の目標、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先等、学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成、授業時数))、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得する資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	教職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技等の取組み、就職支援等への取組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組み
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み
(7)学生納付金・修学支援	奨学金、授業料免除等の案内等
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ、派遣、海外の学校等との交流
(11)その他	生活ガイドブックの作成、配布

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.osaka-bunka.com/about/hyouka.html>

公表時期: 令和7年10月1日

## 授業科目等の概要

(ファッション専門課程 スタイリスト学科)																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			商品知識	ファッション業界で必要となるファッションアイテムの基礎知識を習得する。	1通	60				○	○	○			
2	○			スタイリング I	ファッション業界の仕事に必要なコーディネート方法・TPOの理解と、撮影の現場でスタイリストアシスタントとして必要な知識と技術を学ぶ。	1通	180				○	○	○			
3	○			ファッション・ローイング I	ファッション業界で仕事をしていく上で必要となるデザイン画の表現方法を学ぶ。	1通	120				○	○			○	
4	○			ヘアメイクアップ I	メイクアップの基礎を理解し、イメージを表現する方法を学ぶ。	1通	60				○	○			○	
5	○			ファッションカラー	色彩学の基礎を習得し、色を考えてきちんと活用する知識を身に付ける。	1通	60				○	○			○	
6	○			素材知識 I	素材の成り立ちや特性を理解し、服の基礎となる素材知識を習得する。	1通	45				○	○			○	
7	○			スタイリング 造形 I	服作りの基礎となる基本アイテムの製図方法を学ぶ。各部位の名称や服の構造を知り、製図を引く知識・技術を身に付ける。ソーイングの基礎を学ぶために、服作りや手縫い・素材別のアイロンのかけ方などを講義し実技を行う。	1通	240				○	○			○	
8	○			ビジネスコミュニケーション	仕事をしていく上で専門知識や技術を支えるコミュニケーションやマナーの重要性の理解、解ったことを繰り返しトレーニングすることにより身に付け、後期インターシップや卒業後の仕事の土台作りを目指す。	1通	60				○	○			○	
9	○			ビジネスコミュニケーション	仕事をしていく上で専門知識や技術を支えるコミュニケーションやマナーの重要性の理解、解ったことを繰り返しトレーニングすることにより身に付け、後期インターシップや卒業後の仕事の土台作りを目指す。	1通	60				○	○			○	
10	○			西洋服装史	ファッションデザインやコーディネートの基礎知識として西洋の服装史を学ぶ。	1後	30				○	○			○	
11	○			就職対策 I	現場に身を置き、実務経験する事で、卒業後の働くという意識を高める。	1後	30				○	○			○	

12	○		クリエイティビティ I	様々なテーマからインスピレーションを受け、ファッションデザインの基礎となるデザイン展開方法を学び、スタイリングデザインをするための発想力を身に付ける。	1通	60			○	○	○							
13	○		スタイリング 研究	スタイリストの様々なジャンルに必要な知識の理解と、リアルなスタイリストへのお仕事依頼に対するスタイリングの知識と技術を学ぶ。	1後	60			○	○	○							
14	○		業界情報	業界のトップリーグを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	1後	15			○		○							○
15	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	1通	60			○			○	○					
16	○		ファッションデザイン II	ファッションスタイリングイラストにおける手法や技術の習得。	2通	60			○		○		○					
17	○		ヘアメイクアップ II	ヘアメイクアップの質感や形を学び、表現したいイメージの幅を広げる。テーマに合わせたヘアメイクアップを仕上げる事が出来る。	2通	60			○		○							○
18	○		素材知識 II	素材の成り立ちや特性を理解し、服の基礎となる素材知識を習得する。	2通	45			○			○		○				○
19	○		グラフィックデザイン	アパレル業界で標準的に使われている「Adobe Illustrator・Photoshop」操作の基本と活用方法を学び、スキル向上をはかる。	2通	60			○			○		○				
20	○		スタイリング 造形 II	服作りの基礎となる基本アイテムの製図方法を学ぶ。各部位の名称や服の構造を知り、製図を引く知識・技術を身に付ける。服作りを理解する為に、部分縫いやパニア、ウェストベルト、サッシュベルト、デザインワンピース、総裏付きジャケットを作成する。	2通	60			○			○			○			
21	○		就職対策 II	スタイリストの仕事について知識を深め、就職活動に向けた研修時や面接時に必要な書類を準備。就職希望先へのアプローチや、方向性志望動機などを明確なものにする。	2前	30			○			○			○			
22	○		卒業制作	2年間の集大成となる作品をスタイリングショー、コンテスト形式で発表。上位に選ばれたスタイリングのみ関西コレクションで発表、スタイリストデビューできる。プロの指導を受けながら、スタイリストの実務体験を通して実践力を高める。	2後	120			○			○		○	○			
23	○		パーソナルブランディング	スタイリングで個人・企業のブランド力を向上させる方法を学び、ビジネス視点を身に付ける。	2通	120			○			○						○
24	○		ビューティー・コーディネート	お客様の魅力を引き出すコーディネートテクニックを習得する。人と物の個性を分析し、似合うもの、目的に合ったものを客観的に理論的にアドバイス出来る方法を学ぶ。	2通	180			○			○			○			
25	○		デジタルマーケティング	ユーザーの心理（カスタマージャーニー）の概念を習得。物が売れるまでの工程を習得。	2通	60			○			○						○
26	○		セールスワーク	店頭販売の基礎知識を学ぶ。	2前	60			○			○						○

27	○		業界情報	業界のトップリーダーを招聘し、その分野での様々なトピックに触れることで、学生個々の視野を広げていくことが目的。	2 後	15	○		○		○
28	○		文化活動	運動会・演劇鑑賞	2 通	45		○		○	○
合計					28	科目	1980 単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各学科の在学期間に定められた履修規定に従って科目の授業時数を修得することにより進級卒業が認められる。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験またはレポート、作品、成果物提出が其々の科目で要件を満たした場合。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。